

講義名称	卒業研究Ⅱ	担当教員名	高山 有紀
科目群	必修 (REQ)		
科目区分等	卒業研究 CA4 DI2	単 位	2
対象学年次	2年・秋学期	ナンバリング	REQ212

授業のキーワード	日本文化史、教育と社会、子ども
授業の概要	日本文化、学校教育あるいは子どもに関わるテーマをひとつ選び、次に「なぜそれが重要なのか」を歴史的な視点で考察します。「今後どうあるべきか」について考えられるとさらによいでしょう。
期待される学習成果 (目標)	1、日本文化、教育や子どもに関わる問題を通して、日本社会の変遷について学ぶことが出来ます。 2、身近な文化に関心を持ち、自分との関係性を知ること、視野を広げることが出来ます。

授業展開		
回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方について説明します。
2	報告	夏休み中の作業をふまえ、ゼミ論文の進捗状況を報告します。
3	報告	夏休み中の作業をふまえ、ゼミ論文の進捗状況を報告します。
4	報告	夏休み中の作業をふまえ、ゼミ論文の進捗状況を報告します。
5	ゼミ論文の書き方について	ゼミ論文の執筆にむけて、担当者が模擬報告を行います。
6	報告	ゼミ論文に関する報告を行います。質疑応答。
7	報告	ゼミ論文に関する報告を行います。質疑応答。
8	報告	ゼミ論文に関する報告を行います。質疑応答。
9	報告	ゼミ論文に関する報告を行います。質疑応答。
10	報告	ゼミ論文に関する報告を行います。質疑応答。
11	報告	ゼミ論文に関する報告を行います。質疑応答。
12	個別指導	ゼミ論文の完成に向けて個別指導を行います。
13	個別指導	ゼミ論文の完成に向けて個別指導を行います。
14	個別指導	ゼミ論文の完成に向けて個別指導を行います。
15	まとめ	ゼミ論文を仕上げ、報告をします。

定期試験	ゼミ論文の提出をもって試験とします。
授業時間外学習	第1～5講は、ゼミ報告の準備を行います。第6～10講では、ゼミ論を執筆します。第11～15講では、ゼミ論を仕上げます。
評価方法	授業への取り組み（30パーセント）、課題に対する評価（70パーセント）により総合的に評価します。
使用する教科書（必ず購入してください）	
参考文献	江藤恭二監修『新版 子どもの教育の歴史—その生活と社会背景をみつめて—』名古屋大学出版会 小山静子『子どもたちの近代—学校教育と家庭教育—』吉川弘文館